



2007年5月1日発行
 発行人：徳丸 公義
 発行所：〒650-0024 神戸市中央区
 海岸通8 神港ビルヂング 509
 TEL：078-393-0050
 FAX：078-393-0051
 E-Mail：kobekeio@dream.ocn.ne.jp
 URL：<http://www.kobekeio.org/>
 編集：堀 友子

～～4月例会報告～～

田嶋 紀雄 (昭38工)

4月19日倶楽部ルームにて開催された。

今回は、姫路中央病院副院長兼PET画像センター長の東靖人先生による「PET画像分析によるがん等の早期発見」の講義があり、30名を越す大勢が集まり部屋が満杯であった。



東 靖人氏

6時半、徳丸幹事長の司会でスタート。垣屋さんによる講師の紹介の後早速講義開始。

講義の内容は、PET (Positron Emission Tomography) の原理的な説明。全身PETとCTや血液検査などを含めた検査でがん発見率は約2%で従来型の0.1%程度に比べると発見率が高いこと。腎臓や、膀胱などブドウ糖の摂取の多い場所の癌発見は出来ないが、脳腫瘍、肺がん、乳がん、子宮がん、膵がん、胃がん、大腸がんなど、CTとの組み合わせで早期発見につなげたり、治療方針を立てたり、転移の場合の原発の発見や、治療の効果などがすぐに見ることが出来るなど効果が大きいことなど症例を示しながらわかりやすく説明された。

PETはまだ新しい技術で専門家と言える医師も少なく、診断の難しさがあるので姫路中央病院では神戸大学と連携してダブルチェックで慎重に進めている。また、胃がんは内視鏡技術が進んでいるのでそちらが良いとか、PETでは重複がんの検出などが出来るので手術の前の受検の勧めや、肺、食道、咽頭がんなどの重複がんの80%がタバコ喫煙の原因によるものだから禁煙を勧めるなど参加者の関心にも触れ、「タバコをやめてPET検査を」で講義を終わられた。

質問も多く、そろそろ検査の時期かな？との感の

人もおり、有意義な時間を過ごせた。

広瀬会長の倶楽部の近況報告と「やっぱり健康でなきゃ」の締め、浦上氏神戸市議選当選のお祝いがあり、淡路屋特製三段重お弁当、ビール、懇談といつもの雰囲気に戻り、最後に新入会員と司法修習生で神戸在住の新人紹介があつて終了した。



例会スナ



フレッシュズ

～～春の慶早ゴルフ対抗戦～～

4月3日(火) 廣野ゴルフ倶楽部にて開催。

神戸早稲田倶楽部より10名の参加を頂き、当倶楽部からは16名が参加し、絶好のコンディションのなか、プレーと懇親会で大いに盛り上がりました。

対抗競技は各倶楽部の上位7名によるネット合計で競われ、結果は神戸慶應倶楽部が40ストロークの大差をつけ勝利致しました。

個人戦では優勝：城口隆さん(慶應)、2位：渡辺義博さん(慶應)、3位山田重生さん(早稲田)という結果でした。

(記事：森本)

参加者は以下の通りです。(順不同敬称略)

広瀬 努・森 隆・長岡多摩子・田嶋紀雄・芳川玲子・龍田省吾・鍛冶川清司・鍛冶川玲子・多木良晴・山上高弘・城口 隆・大宮有史・喜多村晴雄・廣川まもり・渡辺義博・森本泰暢

「緒方洪庵」に学ぶこと (その四)

浦上 忠文 (昭44政)

洪庵開業の報が伝わると、長崎時代の同窓や江戸の書生たちが教えを乞いに来た。洪庵塾とも、緒方塾とも呼ばれる「適塾」の始まりである。

適塾の意味は「自分の適とすることを適とする」という意味から名づけられた。適とは、まっすぐに向かって行くとか、心になうという意味である。適塾は、他の制約を受けず、思いのままに勉強する自由の徒の集まりだった。福沢諭吉の「独立自尊」も、同じ意味である。

「適塾」には、やがて全国から蘭学を学ぶ熱意に燃えた若者たちが集まり始めた。適塾の姓名録には、遠く津軽や対馬の地の記録が見られる。江戸の書生が大阪に来ることはあっても、大阪から、わざわざ江戸に学びに行くものはないとうわさされるほど、適塾の人氣は高まった。医業も繁盛し、場所が手狭になり、地下鉄淀屋橋から徒歩二分の現存する適塾の場所に移転した。

おもしろい学校だった。入学試験はなく、ただ申し込めば入学が許された。学費は、月に米一斗五升。一人当たり一畳の居住空間と食費を入れての値段である

から、洪庵がいかに私財を塾に投じたかが解る。武士の子も町医者の子も農民の子も、いつさい平等だった。助け合い、かばいあいながら共同生活を行った。学問は、実力主義だった。洪庵は医家としても多忙を極めていたから、教えるのは、成績の良い塾生だった。

能力別に八クラスに分かれていた。ひとクラスは十五人前後。クラスで蘭書の訳読を行い三カ月上位を占めたものが上のクラスに進める仕組みになっていた。最上位のものを塾頭と呼んだ。

洪庵は、医業で得た金を惜しみなくつぎ込んで書生を助け、悲哀を共に泣き、喜びを共に分かち合った。

諭吉が腸チフスになった時のことである。洪庵四十七歳、諭吉二十三歳の春だった。

洪庵は、諭吉にこう言った。「私は、お前の病気を看てやる。しかし、薬を処方することは出来ない。なにぶんにも迷ってしまう。この薬あの薬と迷って、後悔するかもしれない。薬の処方是他の医師に頼む。そのつもりでいてくれ。」

後に、諭吉は、次のように書いた。

「緒方先生が私の病を看て、薬を処方するのに迷うというのは、わが子を治療するのに迷うのと同じことで、私を、家族のように思っただけに思っただけに感激しました。」

大病後の諭吉は、貧苦にあえいでいた。薬の一件の後、洪庵先生を親のように思い始めた諭吉は、何も隠すことはない、と、実情を打ち明けた。

洪庵は、苦学一筋の自分に恩情をかけてくれた江戸の坪井信道先生のことを思い出し、翻訳家という名目で、諭吉を学費の要らない食客生として雇うことにした。

乱暴者として名高かった諭吉が猛勉強を始めたのは、それからのことである。

「受けたことのすべてを恩返しする」「生まれきたからには、人の役に立ちたい」というのが、少年時代からの洪庵の願いだった。洪庵は、多くの先生から学んだことを、いつそう輝かせて、諭吉をはじめ多くの若者たちにその炎を移し続けた。諭吉は、それをさらに輝かせて引き継いだ人間である。

塾社中の我々は、洪庵先生や諭吉先生の志をさらにさらに輝かせる責任があるのではないだろうか。

(終り)

会員だより

海外旅行大流行！！
旅行記特集を組んで
みました。

《バリ島旅行》

前田 剛資 (昭39工)

インドネシア在住の池田雅彦さん(昭39工)からバリ旅行はどうかとのお誘いを受けました。4月初めに休暇が取れるとの連絡を頂き、さっそくJTB三宮支店へ行き、バリ島ツアーの説明を受けるうちにこの頃の便は10席前後しか空いていない事が判明。急遽、13席空席のある4月4日のJAL便の席をその場で押え、搭乗者名を急いで連絡するという予想せぬ展開となり、BRB誌上での案内は断念することになってしまいました。

今回のバリ島旅行はビーチリゾート(ヌサドゥア)、緑豊かな高台のリゾート(ウブド)に各2日間の4泊6日の行程です。



4日深夜、現地で合流の池田さんを加えた7夫婦、14名がデンパサール空港に到着しホテルへ直行。さっそく池田さんがバリに詳しい友人の情報をまとめた労作の資料を配り、今後の予定を眠い目をこすりながら打ち合わせました。もちろんこの池田情報のおかげでバリ島の主なポイントを前半で効率良く観光し、後半はウブドでゆったりとした時間を過ごすことができたことは云うまでもありません。池田さんに感謝、感謝です。

まずビーチリゾートはミュージカル「南太平洋」を思い出させるすばらしく青い海ですが日差しが強くどちらかというと若い人向きで、前半はバスをチャーターし、ショッピングと観光となりました。

特にバリヒンズー教総本山ブサキ寺院では210日に一度のお祭りの真っ最中。多勢の信者が家族そろって綺麗な民族衣装で正装し、お供え物を頭に乗せお参りする光景は強い信仰心にあふれていて感動的でした。

後半のウブドではジャングルを流れる溪流と豊かな水田に囲まれた広大なリゾート。ここでは特にスパ&エステが好評で、ご婦人はもとより旦那もそろって至福の時間を過ごしました。皆さんまだまだ磨けば光り輝くことを確かめ合った次第であります。また、溪流沿いの2つのプールでは甲羅干をしたり、絵を描いたり、また1杯やったりと思いつきの時間を過ごしました。

ところでバリでの食事ですが我々の口に合う程良い甘辛味の美味しいもので、そろってBINTANGビールを傾け、連日楽しい会話が飛び交い大いに盛り上がりました。海外旅行でこれほどゆったりした時を過ごすのは私ども初めてのことで心に残る旅となりました。

さて、このバリ旅行を3回の連載にして欲しいとのことで、次回古武さん、池田さんの順で投稿いたします。1回目は旅行の概要を紹介させていただきました。

《サワディ カップ(タイ旅行記)》

渡辺 義博 (昭58商)

3月14日夕方、バンコクに昨年オープンした新しい国際空港スワンナプーム空港に20年ぶりのタイ上陸。20年前、アメリカの航空会社に勤務していた頃タイに訪れ、一日中ホテルに缶詰めで会議と研修を受け終了とともに帰国したので、観光らしきものは一切なかったが、今回は報償旅行で観光三昧の旅であった。

空港を出ると夜の6時を過ぎているのに30度を超える、ここは熱帯モンスーン気候である。丁度日本は暖冬から寒の戻りがあり、10度以下だったので、この差は少々厳しいかな? 市内のホテルへ向かうバスの中からの景色は20年前とは大違いであった。高層ビル、高層ホテルが立ち並び、日本企業の広告がバスの窓から次々に飛び込んできた。経済も急発展しているようだ。中国、ベトナムの次はタイがくるかも?

ホテルにチェックインした後、会社の仲間 4 人でタイ式マッサージに行くことになり、ガイドさんから教えてもらった店をタクシーの運転手に英語で告げると、「マッサージ アンド ガール？」たどたどしい英語が返ってきた。こちらが「YES SIR」と返すと、にやにやして車を発進させた。タクシーが 3 階建てのビルの前に止まると運転手は「35 バーツ」と告げた、日本を出る時 1 バーツが約 3.5 円だったので約 120 円、4 人なので 1 人 30 円、安すぎる！4 人もびっくり！ 店に入ると、数人のタイ人の女性が胸の前で手を合わし、いつもテレビで見るポーズをとり「サワディ カッ」と微笑みかけてくれた。フロントのマネージャーらしき女性に「4 人タイ式マッサージお願いします」と言うと、「1 人 3000 バーツ」と返ってきた。ガイドさんからは 500 バーツぐらいと聞いていたので、英語でやりとりし解ったのだが、ガイドさんから教えてもらった店ではなく、俗に言うタイのソープランドに連れてこられたのだ。夜、ホテルから日本人男性が 4 人タクシーでマッサージに行ってくれと言ったので、運転手が気を回したのか、それとも運転手はその店からお客を連れていった見返りにコミッションをもらったのかわからないが、タクシーを呼びガイドさんに教えてもらった店に向かい 500 バーツのタイ式マッサージをうけ、初日を終えた。

2 日目 市内観光、朝からワットポー（暁の寺院）、エメラルド寺院、王宮と見学して回った。チャプラタ川（メナム川）の両岸に向かうように寺院は建っていて、その間をフェリーで川を移動していくのだ。川の水は最悪で淀川よりも汚いと思うぐらいだった。寺院のまわりにはお土産物屋と屋台が乱立していた。その中をバスから降りてきた日本人の団体さんに現地の方が物を売りつける言葉はたどたどしい日本語であった。日中の気温は 36 度を超え、市内観光を午後もつづける自信がなく、中華レストランで昼食後、我々 4 人は団体から離れ、2 回目のマッサージに向かった。ガイドブックに載っていた有名店に予約をした。そこは一軒家でタイの有名人や女優たちも訪れる店だそうだ。今度は 3 時間のヒーリングコースを選んだ。スクラブ、サウナ、2 人がかりのオイルマッサージを受けた最高のリラクゼーション



を経験した。その料金は日本でうけると倍以上するそうだ。その後タイ式ボクシングをリングサイドで見学した。前から 2 列目で、ボクサーの汗が届くほどのところで初めてタイ式ボクシングをみるのができたのは大感激、目の前で KO シーンを見ることができたのはラッキーだった。午後 10 時ボクシング終了後、日本人が多いハップン通りにタクシーで向かい、旅行会社の友人から教えてもらっていたクラブで小 1 時間タイ女性たちにタイ語を教えてもらいながら合コン。またまた、男 4 人大満足で 2 日目を終えた。

3 日目は自由行動日。昼間はバンコク南ロータリークラブメイキャップ。このクラブはバンコク在住の外国企業に勤めている方が多く、英語でのアンチエージングの卓話を伺った。夜、バンコクで水処理の会社を立ち上げた友人のケン君（タイ人で大阪大学に留学していた）とシャングリラホテルで待ち合わせして、チャプラタ川のリバークルーズを楽しんだ。昼のチャプラタ川と 180 度違って、沿岸の高級ホテルの夜景、電飾に覆われたボートが川を行き交い、最高のアジアらしい景色を楽しむことができた。

4 日目最終日。朝から旧都アユタヤ観光に出発。ビルマとの戦いの中で残ったお寺が世界遺産に選ばれているそうだが、少々がっかり。それよりも歴史の教科書にでてくる山田長政の日本人村があり、驚きました。確か、あの時代はシャム国だったかな？ 昼食後、バンコクに戻り、団体旅行では必ずよる免税店に行き、タイシルクをお土産に買い、最後の夜はタイ料理でお腹を満たし、空港に向かい帰国の途についた。

最後におもてなし精神にあふれていた“微笑の国”タイに“コップンカッ”

《パース旅行》

井上 光（昭 35 法）

昨年 12 月スペインのオビエドへオペラを聴きに行ったメンバーで、またコンサートへ行って来ました。今度はオーストラリアのパースです。

関西フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者の藤岡幸夫さん（昭 59 文）が 2 年に一度西オーストラリア交響楽団を指揮する演奏会でした。3 階席まであるパースコンサートホールが満員の盛況でした。

曲目は日本ではあまり演奏されないトランペット

中心の曲目でした。ヤナーチェクの「シンフォニア」はトランペットを14本も使う勇壮な演奏でした。

演奏会は夜8時開演、終了後10時ごろより有力関係者によるレセプションが行われ、日本からのサポーターである我々も参加しました。そこには西オーストラリア総領事の井上氏(塾員昭和49年法卒)夫妻(奥様も塾員)も出席しておられ藤岡さんも含めて塾の同窓会の雰囲気でした。



この日を含めて昼は観光(ピナクルズ4WDツアー。ワインクルーズ。ロットネス島ツアー等)夜は会食にと楽しい実質4日間を過ごしてきました。オーギービーフもシーフードもとても美味しく、いつまでも心に残る旅でした。

《オーストラリアの旅》

菊田 義正 (昭42商)

平成19年4月10日から17日まで銀座慶應囲碁同好会による第4回オーストラリア(ブリスベン)囲碁親睦旅行に参加した。メンバーは慶應囲碁部OBを中心とした総勢18名。関西からは2名参加。慶應先輩が所有するブリスベンの豪華ビラに滞在し、そこが囲碁の会場でもあり旅というより正に「囲碁合宿」であった。

碁会は主に夕食後が多く、昼間は自由時間が結構あったので、観光を一切せずにゴルフ3回、カジノ2回、競馬1回を選択。

[ゴルフ] 3つのゴルフ場それぞれ特徴あり。

◎ブリスベン近くのゲインズボローGC・料金69豪ドル。カンガルーがフェアウェイに沢山いて近寄っても逃げないのにはビックリ。打ったボールが当たるとヒヤヒヤ。

◎ゴールドコーストのロイヤルパインGC・料金110豪ドル。名門だけに広々とした美しく素晴らしいコース。

◎ブリスベンのパンフィックGC・料金49豪ドル。安いと喜んでいたら芝のメンテが悪く、フェアウェイどこでもティーアップありといわれガックリ。

[カジノ] ブリスベンとゴールドコーストと雰囲気の違い2箇所をチャレンジ。ゴールドコーストのカジュアルさに対しブリスベンは建物が趣のあ

る欧風の格調高いカジノで改めてゆっくり行ってみたいと思う。賭けは若干のプラスが出て想定外の幸せであった。

[競馬] 上着、ネクタイ着用。貴賓室で食事をしながら競馬見学。女性が多く目一杯のお洒落をしていて華やか。上流階級の社交場を垣間見、イイ体験になった。賭けは想定内の負け。

さて本題の囲碁は参加者同士のリーグ戦、ブリスベン囲碁クラブとの親善試合、その他連日深夜までの自由対局。それもワインを飲みながら・・・もうフラフラ。

英会話が全く出来なくても外人とちゃんと囲碁が出来て、心も通じ合えたのには感動。

シドニー周りで帰国したが、最後に大失敗。飛行機の中で同行者と携帯用碁盤を取り出してパチリ、パチリ。終わった後大きな声で感想戦を始めた途端、前の座席より外人が乗り出して眉間にしわ寄せ怒りの目つき。なんと周囲を見ると知らぬ間に真っ暗。・・・パチリもうるさかったんだろうな！誠に恥ずかしい限り。

学生時代落ちこぼれでも囲碁部をやめずに良かったなあ！それにしても遊ぶということは体力がいるもんだと改めて再認識。

よし！これからは体力アップに努め来年も参加しよう！

同好会だより

イーゼル会

《今月の絵》



槌橋 真美 (昭47法)

PC同好会

《ジャンクメール対策》

村尾 憲一郎 (昭58商)

かつてウィルスが蔓延し、パソコンのセキュリティー対策＝ウィルス対策という時代がありました。昨今は、ウィルス対策の浸透により、ウィルスに悩まされることはなくなりましたが、それに代わって迷惑最前線で勢力を拡大しているのが、ジャンクメール(迷惑メール)です。私の場合、朝メールソフトを立ち上げると、200～300通のジャンクメールは当たり前、週明けなんぞは、ひどいもので、500通の大台に乗せることすらあります。

これを自分の手で仕訳して、読みたいメールだけ読むのは、到底不可能ですが、そこはパソコンの良いところ、インストールしているセキュリティー対策ソフトが、文句も言わずに毎日ジャンクメールを仕訳して、迷惑メールトレイというところへ格納してくれます。後は溜まりに溜まったジャンクメールを、まとめて削除すればスッキリ爽快です。

ところが、この便利な機能にも盲点がありました。ジャンクメールの仕訳といっても、あくまでセキュリティー対策ソフトまかせ、またこの機能を持ったソフトをインストールしていなくても、普及しているメールソフトがジャンクメールの仕訳機能をはじめから持っているため、読みたい大事なメールまで、勝手に迷惑メールトレイ行きにになってしまう場合が頻繁にあるのです。

最近、あの人からのメールがさっぱり届かなくなったなあ?こんな心当たりのある方は、メールソフトのフォルダをチェックして下さい。迷惑メールトレイとか、迷惑メールフォルダとか、みなさんのパソコンで名称は異なるでしょうが、そこに大事なメールが入っていませんか?

大事なあの人と「送った、届いてない」と気まずくなる前に、どうぞチェックしてみてください。

～～2007年度 総会のご案内～～

日時: 5月29日(火) 18:30～

(受付開始 18:00 から)

会費: 男性 9,000円 女性 8,000円

場所: The Garden Oriental Soshuen

「ザ・ガーデン・オリエンタル蘇州園」

<http://www.thegardenorientalsoshuen.com/>

〒658-0063 神戸市東灘区住吉山手 4-7-28

(TEL 078-851-3182)

総会招集通知・出欠票は、同封の別紙(または添付ファイル)をご覧ください。

出欠の締め切りは、5月22日(火)です。

～慶應・同志社ラグビー定期戦のご案内～

毎年3月例会でお世話になっている「東天閣」の中神安邦さんから、ラグビー観戦チケットをご提供いただきました。

日時: 5月13日(日) 午後1時キックオフ

場所: 花園ラグビー場 第1グラウンド

観戦ご希望の方は、事務局または中神氏(TEL: 090-3160-8113)にご連絡ください。

＝訃報＝

会員: 三木 二郎氏 (平8経)

2月14日 前立腺癌により逝去されました。

(享年77歳)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

編集後記
○新緑が爽やかな季節、大型連休を控え、各地に出かけたくなりますね。社中の旅行記もガイドブックさながら、お楽しみいただけました。お待ちしています。○旅行もスポーツも元気であればこそ。東先生の講義を参考に、まずは病気になること、これが肝心ですね。(ほ)